

平成 20 年度日韓共同理工系学部留学生事業協議会報告

1. 日程：2008 年 7 月 25 日(金)
2. 場所：横浜国立大学教育文化ホール
3. 出席者：村岡貴子、西村謙一
4. 報告：以下、当日の配布資料に基づき議論の主要な点を報告する。

4.1 文部科学省（「2008 日韓実務会議の結果概要」）より一部抜粋：

①筆記試験の受験者拡大

- ・ 本事業の韓国内における人気の高まりから、年々応募者が増加。
- ・ 幅広い留学生候補者の中から、質の高い優れた学生を筆記試験へ導くため、これまでの受験者数 500 名から 750 名に拡大。
- ・ 筆記試験の合格者（150 名）及び最終合格者（100 名）についてはこれまでと同様。

②留学生同窓会 Web サイトの開設（韓国側が準備中）

③大学情報の積極的な提供

- ・ 受入れ大学（学部・学科）の基礎情報を積極的に発信
- ・ 各大学の個性・特色ある教育・研究の取り組みを最大限に発信することが重要
→ 大学情報を求める学生に対して、十分な情報（内容、分りやすさ、言語 etc）となっているか

④事業評価

- ・ 大学セクターに限らず、進路先となる企業や韓国内の高等学校からの評価やニーズ把握
- ・ 今年度中に大学側に評価を実施。

4.2 韓国の国立国際教育院（「韓国における本プログラムの評価と 2009 年度以降の方向」）より抜粋：

① 韓国社会の留学に対する認識と留学政策の方向

- ・ 日韓両国の大学生の交流拡大
- ・ 2012 年までに外国人留学生 10 万人受入れを目ざした国家政策推進

② 韓国における本プログラムの評価

- ・ 全体的に肯定的に評価。但し、留年の比率が 10.9%に及ぶ。
- ・ 卒業生全体の 71.4%が大学院進学、うち 96.5%（278 名）が日本の大学院に進学。
- ・ LG 電子を始め LG イノテック、Hnix 半導体、三星電子、三星電気等が奨学金制度を運営。関係者からの評価は高い（すぐに現場で働かせられる、自分で問題解決可能等）
- ・ 韓国の中学生、高校生、および保護者の関心が非常に高い。専門の塾とサイトもある。

4.3 慶熙大学（「慶熙大学における第 9 期生の学習状況と予備教育システムの提案」）より抜粋：

①教育課程の改編（初期に日本語集中教育、のちに専門教科授業実施）

②学則の再改定（修了の条件：出席率 90%〜等）

③教育の連携（留学推進フェアの充実、卒業生や先輩学生の役割拡大、日本の教員による韓国での授業実施等）